

サザンクロス大学(春期)

語学研修を通じた学び、成長、発見

サービス創造学部 三田さくら

初めての語学研修での大学の授業、日本とは違う人違う環境の中での生活やアクティビティ、そして初めてのホストファミリーとの生活。その中で私が約3週間の海外短期文化研修を通じて学び得たものについて、述べていきたいと思う。

オーストラリアで生活していく中で、楽しかったこともあれば、壁にぶつかったことや悔しかったことも多々あったが、その中でこのプログラムに参加していなければ学べなかったことや成長できなかったこと、手に入らなかった力などたくさんあった。このレポートを通じ、自分自身研修を振り返り今後の展望に繋げていけたらと思う。

はじめに、私が最もコミュニケーション能力や語学力が伸びたと感じることであった。ホストファミリーとの生活について振り返る。私のホストファミリーは80歳のマザー1人で、同じ千葉商科大学の学生の芝野さんと私の、3人での暮らしだった。

私は研修1日目から最終日まで、就寝前に少しでも日記を毎日つけていた。1日目の日記を読み返してみると、「初日にしては話せたと思う」「もっと話したいし、楽しんでもらいたいし、マザーの話を知りたい」などと書かれていた。マザーは本当に温かい人で、すごく私たちを気にかけて、よく話を振ってくれた。初日のランチ中も、オーストラリア到着直後だったためすごく身構えてしまい、緊張し、ぎこちない私たちに対して温かく話しかけてくれた。振り返ってみると正直、話している内容の半分以上はあまり完璧には理解できていなかったが、単語やイントネーション、ジェスチャーなどで感じ取れることが多かったため、手ごたえを感じていた。話し手側の場面でも、高校時代に詰め込んでいた文法や単語を引っ張り出し、自分の伝えたいことを無理やり伝えていた。きっとマザー自身も、理解出来ていなかった内容も多かったはずだが、すごく私自身に温かく向き合い、私の思いを汲み取ってくれた。

この時私は、同じホームステイ先の芝野さんがマザーに対し、お家のことであったり、マザーに関することであったり、オーストラリアについてなど、すごく積極的に話しかけている姿に感化された。目に見えるものや、知らないことや知りたいこと全てに対し話しかけていた。その姿に刺激を受け、「私も」というように、必死に英語を口にしていった。「英語を話せるようになりたい」という思いが確実に強く芽生えた瞬間だったように思う。私はこの研修中、彼女の「この貴重な時間、体験を絶対に無駄にはすまい」というような姿勢に、毎日とっていいほど刺激を受けていた。

大学の授業ももちろん英語のみで行われるため、授業内でもリスニング力やスピーキング力が伸びたことを実感するタイミングが多くあった。発言できるタイミングで、「こうかな」と思っても間違えた場合の自分を守るために、誰かが発言するのを待ってしまったり、自分よりも英語力のある人に頼ってしまう場面があったりと、すごく恥ずかしく悔しい思いをして、反省をしたことがあった。そこから、限られている時間の中で逃げては恥ずかしいと思うようになり、出来る限り積極的に発言するようになった。発言するほど自信に繋がり、力も伸びているような感覚があった。発言して間違っていることも何度かあったが、挑戦して失敗することは恥ずかしいことではないと思えるようになったため、間違えて恥ずかしいと感じることはなくなっ

た。これは、今までの自分の人生の中では革新的なことで、大きな成長であったと自負している。

その一方で、英語でないと自分の思いが伝わらない生活になり、英語が得意ではない私にとっては、やはりストレスや悔しさに繋がる体験も多くあった。話したい、聞きたい思いは強くても、その思いに比例して英語力が伸びる訳ではないため、どうしても出てしまう憧れと自分の実力とのギャップで、人と自分を比べてしまいマイナスなことを考えてしまうこともあった。しかし、毎日少しずつでも確実に聞こえる感覚が増えていくことや、会話のラリーが続き、同じ思いを共有できることがたまたま嬉しかった。毎日新しい表現や単語を覚え、それを次の日に使えることで、また一つ繋がれた感覚があり、前を向くことができた。

他にも、学内のカフェや、週末にホストファミリーや友人たちとショッピングモールやレストランなどに足を運んだ際に、店員の人と上手くコミュニケーションが取れたときの喜びや興奮も印象に残っている。どこへ行っても、道行く人に互いに笑顔を向けたり、あいさつを交わしたりする日常がすごく恋しい。認められているようなすごく明るい気持でオーストラリアのあらゆる街を歩き感じる事ができた。

そして「コミュニケーション」の中で、もう一つ自分の中で大きかった体験がある。私は小学生の頃からしているダンスが大好きなのだが、研修前から外国に行く機会があれば現地のダンススタジオに行ってみたいという思いがあった。そのため、リズモアにあるダンススタジオを事前に調べてもらい、実際に行ってみた。毎週月曜日、研修中に3回スタジオに通うことができたのだが、私はこの海外のダンススタジオに行けた経験がすごく感動的な思い出として残っている。使う言語も住んでいる国も文化も環境も違うけれど、一緒に踊っている時はそのような壁は一切なくなり、ただ「ダンスが好き」という思いを、ただひたすらにダンスを楽しみながら共有できたような、言葉の壁を一切感じない時間だった。すごく心がぎゅっとなるようなあの時の感覚がまだ残っていて、忘れないようにしたい時間を過ごすことができた。本当に自分にとって貴重な大切な経験だった。

このような様々な形でのコミュニケーションにおける経験が、自分自身を成長させ、新しいものにしてくれたと振り返る。言語や住んでいる国が違うからといって、持っている感情が違うわけではなく、楽しいことや幸せだったこと、好きなこと、悲しかったこと腹が立ったことなど、思いは伝え合うことができるし、共有し繋がることができる。言語が違うからといって「英語を聞こう」と身構えるのではなく、その人とその人の思いを「知りたい」と思い耳を傾けることが素敵なことなのだなと感じた。自分が話す側になった時も同じで、自分の思いを優先して伝えることが大切なのかなと感じた。それで自分の語学力の関係で相手の言っていることが分からなかったり、伝わらなかったりしても、何度でもチャンスはあるし、お互いに思いを共有したいという思いが一緒であれば、伝わるまで何度でもトライできるし絶対に繋がる事ができる、語学研修を通じてそのように考えるようになった。

そして私は、日本へ帰国後、人通りなどを歩いている時の視野が広がったような感覚がある。人の顔をジロジロと見て詮索するようなものではなく、楽しそうに幸せそうに歩く人を見つけて心温まり微笑んでしまう瞬間や、その人らしさが表れている服を着ている人や、自由に楽しんでいるなと思う人を見ると嬉しくなる瞬間が生まれるようになった。

これはきっとオーストラリアなどの海外の、アジア圏には少ない文化や風習を体感したからだと思う。話で聞いていた通り、本当に街を歩いている人全員が好きな服を好きなように着ていて、メイクも隠すためのメイクではなく、自分の個性を引き出すためのメイクをしているように

感じて、もちろんノーメイクの人もいて、日本にあるような「流行」が見えなかった。すれ違う人々が、日本よりも上を向いて歩いているような気がした。帰国後電車のホームで向かい側のホームを歩く人たちを見ていると、心なしかみんな同じような服を着ているように見えた。8割が黒に近い服を着ていて、周りに溶け込むようにしている印象を受けた。振り返ってみると、私も外出時に「これを着ると目立つからもう少し抑えた色の服にしよう」と無意識に考えていることがあったと気づいた。私自身が元々、周りとは異なるような服には抵抗があり、少し色遣いが派手で、個性的な服が好きで、だけど目立ってしまうからという理由でためらってしまう場面が過去に何度もあったが、好きな服を好きなように着ている人たちが本当にキラキラして見えたため、もっとオープンに、「私の好きな服を見て!」というように、自分の好きな服を着たいなど改めて思えるようになった。

マザーにも、自分の行動や見た目に対して、周りがどう思うか気になってしまうことがあると話した時、「周りの人は自分の見た目や行動を全然見ていないし、もっとオープンに好きにしているのよ」と言ってくれた。この言葉を言われたときにスッと自分の中に入ってきたのは初めてだった。自分の行動や自分の発言、身なりや顔、服も全て、もっと自分に対して自信を持ち大切に愛そうと心から思った。

そしてもう一つ、私はオーストラリアのお店が閉まる時間の速さに衝撃を受けた。17時や18時にはほとんどのお店が閉店し、それぞれ家に帰り家族と食事を楽しむことが当たり前で、心から素敵だと思った。サービス残業などなく、勤労への考え方が良い意味で軽く、仕事の優先順位が低いと聞いた。これを聞き、純粋に日本よりも生きやすそうと思ってしまった。ここでも日本とは少し違う個人を大事にする文化を感じた。

しかし、逆にこの研修へ来ていなかったら気づくことのできなかった日本の良い所も見つけることができた。国によってここまであらゆる視点での考え方や捉え方が変わってくるのだなと思った。これを生で感じることができ、改めて貴重な体験だったと振り返る。

このような語学研修で感じたコミュニケーションの大切さや、文化や生活の違い、自分自身の変わった成長した考え方や価値観などから、私はこれらの学びや経験、成長を総動員させた人になりたい。自分を認め愛し、他人を認め愛することの大切さ、素敵さを強く感じたため、それを忘れず大切に覚えておき、それを体現化できる大人になりたい。

そして、もっと英語を話せて聞けるようになりたい。たくさんの国へ行き、たくさんの人と話し、話を聞きたいという思いが芽生えた。今回初めてアジア圏以外の国に行くことができて、良い意味で、世界が小さくなったような気がした。マザーのように、世界を見て素敵で大切な自分だけの人生にしたい。この語学研修という貴重な機会に巡り合え、参加できたからこそその体験、成長、参加できたからこそ出会えた友人、先生、マザー、仲間全てへの感謝をこれからもずっと忘れず、これから自分らしく成長していきたい。